

① 醍醐味

「スポーツの醍醐味を味わう」という時の「醍醐味」は、本当のおもしろさ・真髓しんずいという意味で使われる言葉です。

インドに、五つの味と書いて「五味」という味の区分があります。これは、五種類の乳製品、「乳・酪・生酥・熟酥・醍醐」のそれぞれの味のことをいいます。

「乳」は、しぼったままの牛乳です。しかし、それ以外の四つは、インドでの作り方は伝承が途絶えており、今では味わうことができません。ただ、しぼったままの牛乳が最初に置かれていますから、次第に精製あるいは発酵がなされていった順番になっていて、五番目の「醍醐」が、極上の味であるということは想像できます。

この極上の「醍醐」の味を、お釈迦さまの教えになぞらえたのです。最高最上の味をもち、人々を安心・安楽に導くお釈迦さまの教えを「醍醐味」と称したのです。

これが、仏教以外の物事にも用いられ、現在の意味になっていったのです。

食べものの「醍醐」は、今となっては味わうことはできませんが、途絶えることなく綿々と伝えられてきたお釈迦さまの教えの味「醍醐味」は、仏教を学び実践することで、味わうことができるのは、うれしいことですね。

② 知事

「知事」は、都道府県を統括し、それを代表する人を指しますが、もとは、「事を知ること、つかさどること」という意味で、古代インドの言葉、サンスクリット語の「カルマ・ダーナ」を訳した言葉で、インドの寺院における役職の名でした。寺院内のさまざまなことをつかさどる役をそう呼んだのです。

中国でも、寺院の雑事や庶務をつかさどる役職の名として「知事」が使われました。

中国の禅宗寺院では、その発展に伴い、「知事」の人数が増えていき、六人の「知事」を置くようになりました。これは、日本の禅宗寺院にも導入されて現在に至っています。

中国では宋の時代から、ときの行政府が禅宗寺院にならい、地方長官の名称として「知事」を用いるようになり、現在の日本の都道府県の「知事」につながっているのです。